

おこ かけ
「健や家づくり」のシステム工法 / 自立と介護の家づくり

おこやか&スマイル

有限会社 ケアライフ・システム

〒601-8335 京都市南区吉祥院砂ノ町16

Tel (075) 693-0333

Fax (075) 202-8455

<http://www.care-life.info>

(2009/04月号)

奈良東大寺二月堂のお水取りが済み、春分（春のお彼岸）が過ぎてようやく春本番。

『比良八荒 荒れ仕舞い』これが過ぎればもう冬に戻ることはないでしょう。

19日には桜の開花宣言も発表されました。観測史上最も早い日だそうです。

これから世間では『花見だ～、行楽だ～』と賑やかなことで、各地の花見・観光スポットには連日大勢の人が訪れている様子がテレビや新聞で報道されることでしょう。



でも、花粉症の人には辛い季節。

スギからヒノキ。カモガヤ・ブタクサ・シラカバ・イネ科の花粉 etc. 約60種類の植物により花粉症を引き起こすと報告されています。



近年は、通年性アレルギー性鼻炎と花粉症の両方に悩まされる人や、複数の花粉に反応する人も増えてきています。

また、ある種の果物や野菜を食べると「**口腔アレルギー症候群**」の症状を現わす人もあるようです。

京都カナリヤ会 総会と記念セミナー

去る3月14日、京都カナリヤ会総会と設立一周年記念セミナーが開催されました。一個人会員として出席した内容をお知らせします。

総会では、京都カナリヤ会が平成19年11月の設立準備会の結成から、翌20年1月の発起人集会を経て3月9日に「**有害物質による環境汚染の予防を呼びかける市民の会**」として設立されて以降、この1年間の活動報告と、来年度の活動計画が審議・承認されました。

代表をはじめ世話人・会員は、理解ある有識者をはじめ多くの方たちのご支援で、有害物質による環境汚染と人体への影響について知識を深め、実態の調査・研究に基づいた予防と被害者支援を行ってこられました。

京都カナリヤ会の活動は、平成20年度『京(みやこ)エコロジーセンター』の環境事業助成対象に採択され、2回の連続講座も開催されています。

活動の成果をまとめた啓発用パンフレット『**耳を傾けてください、カナリヤの声に**』は、被害の予防には、知ること・関心を持つこと・体内に取り込まない工夫と有害物質の排出削減を実行することが、未来世代の環境を守るために重要で、社会全般に総点検が必要だと啓発されています。



京都カナリヤ会 パンフレット

総会後の記念セミナーは、小児科・アレルギー科専門医の医療法人島津医院 院長 島津恒敏先生による、『**化学物質や歯科金属のアレルギーとステロイド剤による健康被害**』と題して約2時間の講演でした。

増え続けるアレルギー、安易に使用されるステロイドの副作用、ステロイドが誘導するアトピー体質、アトピー性皮膚炎を難治化させる原因物質、歯科治療に使われている有毒物質等など…。

私達の身の回りにどれほど多くの有害・危険物質が溢れているか、今更ながら愕然としました。(出席者：西川 泰司)

『京都カナリヤ会』ホームページ <http://www.kyotokanariya.com/>

黄砂アレルギー



環境省 黄砂パンフレット

前回ふれた黄砂について、もう少し考えてみたいと思います。

黄砂をインターネットで検索すると、気象庁・環境省・Wikipedia 等々に、発生のメカニズムや影響などが詳しく載っています。

長崎県衛生公害研究所の黄砂のはなし (<http://www.pref.nagasaki.jp/eiken/taiki/kousa.html>) や環境省の黄砂パンフレットは、解りやすくまとめられています。

気象庁では、黄砂情報（実況図）を3時間ごとに更新し、インターネット上で常に最新の分布を見ることができます。

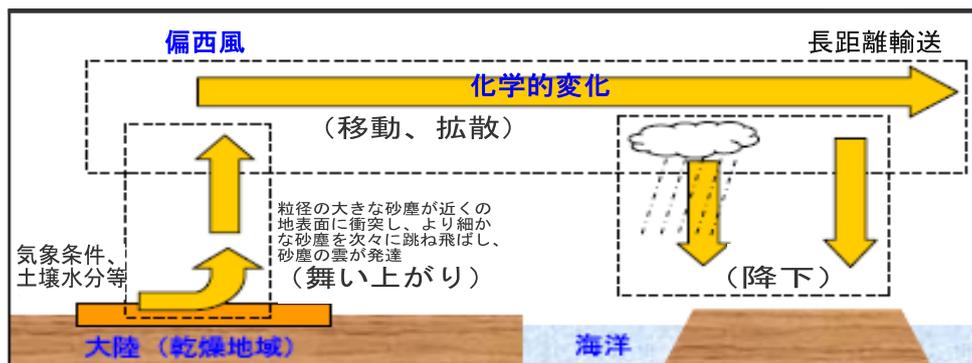
環境省では、2002年12月に「黄砂問題検討会」を設置し、黄砂問題に対する取り組みと課題を検討・報告しています。

類似の現象：地球全体の風成塵は約15億トン/年と見積もられていて、東アジアの黄砂は2~3億トン/年（別データでは約3.3億トン/年）、サハラ砂漠の風成塵（イタリア名 シロッコ）は2~3億トン/年と推測されています。ギニア湾岸からベルデ岬付近の地域で吹くハルマッタン、スーダンの砂嵐ハブーブ、エジプトの高温風ハムシン等があります。



イラクの砂塵嵐

発生のメカニズム：低気圧の発生などにより、中国大陸内陸部のタクラマカン砂漠や黄土地帯、モンゴルのゴビ砂漠など乾燥・半乾燥地域で、数千メートルの上空にまで巻き上げられた鉱物・土壌粒子が偏西風に乗って拡散し、東アジア・西太平洋地域を中心に広く拡散あるいは降塵する現象をいいます。強風などの気象条件だけでなく、強風下にある地域の表面状態（地形・土壌の構造・地表の植生・表面粗度・土壌水分 etc.）も大きな要因になります。



黄砂予測モデルの模式図

また、衛星画像の解析によって、北太平洋を横断し北米大陸にまで到達していることもわかっていますし、更には、北大西洋を越えヨーロッパアルプスにまで運ばれていた事例が報告されています。

黄砂現象による様々な影響：発生域周辺では農作物や生活環境への被害の拡大が問題になります。多数の死傷者や家畜・農作物への被害も報告されています。

韓国では、学校が休校になったり精密機械工場が操業停止になるなど社会的に影響が出ています。日本では、視界不良による交通機関への影響、洗濯物などへの付着等が認識されますが、最も関心を寄せられるのが**粒子状物質による大気汚染とそれに関連した健康への影響**です。

黄砂現象は太古から春先に多くみられる気象現象の一つです。しかし、近年黄砂の飛来が頻繁に観測され、また、以前は観測されていない地点でも確認されてきています。

これは、発生地域の拡大や降水量の変化、積雪面積・期間、飛来経路の変化などが原因とされています。

気候変動に関連するような長期的影響や、黄砂の物質循環に関連する環境科学的影響（酸性雨の中和や栄養塩類の輸送等）については明らかでない部分が多くあります。特に、他の現象との複合効果・影響（**黄砂粒子が大気汚染物質を吸着し輸送する現象等**）については、まだまだこれから調査・研究を進めていかなければなりません。

黄砂に付着しているカビ等の成分がアレルギーとなり、病態を悪化させるという動物実験結果は報告されています。